



録画配信の
2次元コード

町田 昌弘
健政会

悲惨な事故を無くす!交通対策/ これからも入曽駅の進化と共に!

◆交通安全のポイントはちょっとした心がけ
や思いやり。市ができることは何か

Q 市が実施している交通安全対策は

A **市民部長** カーブミラーや注意喚起看板の設置、路面標示の施工。信号機や横断歩道の相談を警察へ取り次ぐ。交通安全教室等の実施。今後も引き続き関係機関と連携し、交通法規改正等の市民への情報提供に努めていく。

◆駅前安全と賑わいのためには、周辺道路の整備、西口側の用途地域の緩和が最重要

Q 駅周辺の県道に関して、今後の整備の情報は。県へどのような要望をしているか

A **都市建設部長** 県に確認したところ、具体的な整備予定はない。県道所沢狭山線と県道川越入間線の歩道整備を継続して要望している。

Q 駅周辺の市道に関して、まちびらき以前には予想できなかった危険箇所等があるか。今後の整備の予定は

A **都市建設部長** 重大事故は無く、危険箇所は生じていない。西口側の市道B第751号線および市道B第313号線の拡幅整備を進めていく。

Q 意見や要望が寄せられているか。対応は

A **都市建設部長** 評価がある一方、区画道路等に関する意見には事業の目的や安全性の観点を説明している。安全対策の場合、現地確認をして注意喚起看板等の設置を実施している。



録画配信の
2次元コード

三浦 和也
無所属

「ふるさと住民登録制度」に 狭山市は参画する考えがあるか

Q ふるさと住民登録制度は、居住地以外に、もう一つの住民票を持つようなかたちで、特定の地域と継続的に関わる「関係人口」を増やすことを目的とした、国の新しい制度。仮に狭山市が参画するとしたら、どのような効果が期待できそうか

A **企画財政部長** 興味や関心を持った上で狭山市に対して「ふるさと住民登録」を行うことが想定されることから、そういった方々のニーズに合った情報をダイレクトに提供することで、より効果的に地域イベントへの参加や特産品の購入などを通じた地域の活性化を図ることはもとより、その接点を契機として、地域コミュニティの「新たな担い手」となる関係人口と交流人口を継続的に創出することで、人口減少という構造的な課題に直面する中であっても、狭山市の持続可能性を高める一助になると捉えている。

Q 参画を検討するとき、課題となる点は何か

A **企画財政部長** 「ふるさと住民登録制度」への参画は、国が実装を予定しているふるさと住民向けサービス提供アプリの導入および運用管理に伴う市の費用負担や、職員のマンパワー、登録されたふるさと住民情報の適切な管理など、実務上の課題等が見込まれる。



もう一つの「ふるさと」で楽しむ